

# あきる野民報

発行責任者/松平重幸 〒197-0826牛沼243-9

TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、「住民こそ主人公」のあきる野市政実現をめざして!

2010.4.25 No.531 (毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会は次の見解を発表しました。

参院東京選挙区  
予  
定  
候  
補

小池あきら

参院比例区  
予  
定  
候  
補

田村智子



## 参議院選挙まで70日余! 東京選挙区は小池あきら 比例代表は日本共産党へ の声を大きく ダツミユ!



各支部・後援会が街頭へ、市民と対話活発に。

ハンドマイク  
宣伝がすでに  
二〇〇カ所に  
南支部では、昨年の総  
選挙以後、たばたあずみ  
市議を先頭に、ハンドマ  
イク宣伝で地域を二巡し、  
二〇〇カ所の宣伝になり  
ました。  
参議院選挙勝利のため  
には、支部として、宣伝  
の強化を考え、週二回の  
宣伝に取り組むことを計  
画し、頑張っています。  
山根議員と共に  
毎週駅頭宣伝に  
野菜の差し入れも  
東地区後援会と山根議  
員は、東秋留駅頭宣伝を  
毎週欠かさず行っていま  
す。通勤者が「いつもご  
くろうさま」と声をかけ  
てくれたり、ときには野  
菜の差し入れがあり、励  
まされています。

日曜日に地域を  
限定して対話を  
五日市支部では、山田  
の五十軒ぐらゐの地域に  
JRの時刻表と赤旗宣伝  
はがきを前日に入れて、  
日曜日(十八日)に「赤旗」  
の購読のおすすめと対話  
を広げようとたばた議員  
も参加し、また、ハンドマ  
イク宣伝をしながらいつ  
せいに行動しました。  
留守も多かったが、三  
分の一位のお宅で対話が  
でき、「民主党は駄目、共  
産党に頑張ってもらい」  
などの話になり後援会二  
ユース読者が増えました。  
また、「大雨の度に支流が  
溢れる」「山田大橋の震動  
が大変」などの困り事も  
知ることが出来ました。  
行動の後「時刻表が好  
評だった」「大変良かった  
から次は小中野の方でも  
と話し合いました。

どうすれば、いまの政治を国民が望む方向にかえられるか?  
こいっしょに考えてみませんか

### 日本共産党演説会

志位和夫  
委員長がおはなします

5月14日(金)  
午後6時30分開場

東京体育館

参院選を先取りする伝説に

小池あきら 田村智子

03-5370-0311

みなさん一緒に参加しましょう 詳しくは、決まり次第ご案内いたします。  
**バスを仕立てて参加します。**

なほらしき  
こどもぐらし

たばた あずみ  
きまぐれむすめ8歳。少し前はお手伝いが  
大流行でしたが、このごろは一筋縄ではいか  
なくなってきました。  
帰宅して、夕食準備、家の片付け、お風呂  
の準備...どこの家もおおそがしの夕方。「自  
分の服だけでいいから、洗濯物をたたんでち  
ょうだい」に、ごねること10分。わけのわか  
らない理屈を並べ、すったもんだの末、ぶり  
ぶりしながらとりかかります。  
一日分、一人分の洗濯物ですから、5分も  
あればあっけなく完了です。  
「あれっ、これだけ?なー  
んだ、もんく言っていないで  
やればよかったねえ」。  
...その気持ち、どうかど  
うかおすすねなく。  
(10.4.25)  
連絡先は☎550-6674

野良望  
昨年、国会で古代史の論争が  
あり、学界とは別のこうした  
場の論争は意外でした。日本  
共産党・吉井英勝議員が二月  
の衆院予算委員会で「学術的  
に箸墓古墳は誰なのか」更に  
六月の衆院内閣委員会では箸  
墓の立入り学術調査への制限  
に法的根拠がない」と二つの  
質疑がありました。◆天皇家  
の墓とされる「陵墓」の公開を  
宮内庁が制限するので、場所  
や日時に限りがあります。特  
に邪馬台国論争の決着に向け  
て卑弥呼の墓として有力視  
される奈良県桜井市の「箸墓  
古墳」は陵墓だからという理  
由で公開を阻んでいます。吉  
井議員の指摘に政府は「古代  
史解明のために要請に応える」  
と回答し一歩前進しました。  
◆同年十一月十日、桜井市の  
纏向遺跡で大型建物群が発掘  
され脚光を浴びました。陵墓  
である箸墓は纏向遺跡の南端  
に位置していますが、ここには  
原始社会から初期国家形成へ  
進み、階級社会へ突入してい  
った事実が浮かび上がります。禁  
忌とされてきた「陵墓」の発掘  
が一日も早く実現される事を  
願っています。(木崎)

### 国民救援会秋流支部が花見(4月4日)

## 満開サクラの下、ケーナー演奏など賑やかに

国民救援会秋流域支部の花見の会が、草花公園の平井川河畔で開かれました。花曇りで少し寒いぐらいでしたが、満開の桜の下、子どもを含め30人近くが車座になって楽しいひとときを過ごしました。

豚汁や焼き肉、差し入れの品々を味わいながら全員が自己紹介。今年はお出からウクレレなどの演奏集団「ピュートルズ」の仲間が参加、それにアコーディオン、ハーモニカ、ギターさらにケーナーの演奏も加わり、みんなが歌声を響かせとても賑やか。堀越事件でのいい



国民救援会



第81回・三多摩(井の頭公園西園) **メーデー**に5月1日(土) 10時～ **参加しよう**

2010 **全国青年大集会**に **参加しよう**

5月16日(日)13時～ 東京・明治公園



**ハトボツボガキの遠いかアメリカへ** 蕎麦湯  
**基地移転政府の案は今日手** 蕎麦湯  
**選挙詐欺書わかれて聴こぬ民主** 松籟坊  
**国民は真の味方の標心旅** 松籟坊

**読者のひろば** 投稿

**信号無視を取り締まる警官が?**

あされた警察官を見た。四月九日昼頃、五日市街道の下山田信号で赤信号なので横断歩道手前で私が待っていたところ、作業用制服のようなものを着た男が赤信号を無視して渡って来た。不思議に思い、背中を見たとたん「交通捜査課」の文字。私は思わず、呼び止めて「いま、赤信号なのに渡って来ますよ」と尋ねると「あ

つ、すみませんという、でもあなた警察官でしょ?」「こんなこと許されるんですか?」「お名前はなんというんですか?」「と尋ねた。すると「あやまったでしょう、名前はいりません、私は「あやまれはいりません」と食いついていこう」と食いついたが押し問答を無視して立ち去った。背中に「交通捜査課」の文字が……。

山田在住 Y.K

### あきる野の会が 9条の学習

## 日韓併合100年と NHKの『坂の上の雲』

4月11日



講師は梅田欽治先生(宇都宮大学 名誉教授)

### 54人が参加し熱心に…

まずNHKの「坂の上の雲」の紹介ビデオが上映され、続いて梅田欽治先生は「日本は日露戦争と並行して韓国併合を強制してきた。これに反対する韓国民の抵抗闘争を武力で弾圧。日露戦争の勝利により、日本国民のなかにナショナリズムが高揚したが、併合に反対する者もいた。大逆事件などで恐怖政治をつくり出した。日本の敗戦によりポツダム宣言で朝鮮は日本の植民地から解放されたが、日本が自ら行ったのではないことに重い問題がある」と話した。つぎに、NHKの『坂の上の雲』に関して司馬遼太郎自身が映像化を許さなかったことをあげ、「歴史書と異なり小説は作者のフィクションが入る。視聴者はこのことを念頭にみる必要がある。作者は日露戦争を祖国防衛戦争と規定していることが問題点ではあるが、最終章が『雨の坂』となっていないことは、作者の意図がおのずから変化したのではないかと述べた。



絵手紙/瀬川和子さん・牛沼在住

## 歴史探訪

### 第111回 地名考・乙津②



龍珠院

六十キロ、古くは戸倉村に属していたが、寛文九年(一六六九)に分かれて一村となった。村の四境の東南は戸倉村に隣接、西は檜原村、北は養沢村に及ぶ。東西四キロ・南北六キロ程ある。南北は山や丘が多く総て陸田である。土性は野土・真土・砂土等さまざまで五穀の生産には適していない。民家の一九〇軒は秋川の兩岸に沿って散在している。土地の産物として大畑紙と云う紙を漉いて生活の助けとしている。村内西の方に檜原道と云う往来があり、道幅は約二米で秋川に沿った道である。村の中央に養沢村の飛地があり、民家も十二軒ある。この飛地のために村の大きさが云い難い。検地は寛文七年(一六六七)に行っている。もとより御料所(皇室所有の土地)であったが宝暦二年(一七五二)に米津越前守に譲り渡した。……(後略) (この項終り)

草花・木崎秀治

**俳句**

(季語)「つくづくし」土筆の別の呼び方です。畦道や野原を歩きながら気を付けて見ると、筆の形をした土筆を発見する事があります。(吾子ちさき「餅つきづくづくし」(文蘭))

抱き上ぐる温き日なたのにおいの児 (照代)  
 うくひすや小筆になぞるいろは歌 (つや)  
 新聞を一人繰る音春の雨 (勝代)  
 新しいきヒール履ひ葱畑 (静子)

菜の花の海に戯れ幼き児 (るり子)  
 在りし日の父を辿りし多喜二の忌 (かほる)  
 亡き母の背にゆられ見し鵬月 (富)  
 春浅し父母の墓訪ふ旅支度 (淑子)  
 地震あとの地割れの里やつくづくし (秀治)

「軍道」の標記は当て字で特別な意味はありませんし、明治二十二年に標記されたと言いますので比較的新しい小字名です。

乙津村について「新編武蔵風土記稿」では、次の様に書かれています。(木崎詳略)「乙津村は郡の西北にあり、立田庄秋留郷に属す。江戸日本橋から行程